大温室土壌入替えと植栽について

永井親雄・柴田昌男

2001年７月～８月、年次計画に基づき大温室植栽桝の土壌入れ替えを行なった。施行場所は、図に示す４植栽区で土壌踏圧、土壌劣化、作物生育環境の改善を目的とした。なお、時期については、他工程区との調整による。

1　概要

A区

下草類は全て掘り上げ、トックリヤシなどの根回り50cmを残した17.7m²で、30cm掘削・埋め戻しを行なった。

B区

サトイモ科、キツネノマゴ科の下草類を全て掘り上げ、ヘゴなど根回り50cmを残した30.1m²で、30cm掘削・埋め戻しを行なった。

C区

リュウゼツラン科のコルディリネなど全ての株を掘り上げた8.0m²で、30cm掘削・埋め戻しを行なった。

D区

トウダイグサ科のクロトンの株を全て掘り上げた7.2m²で、30cm掘削・埋め戻しを行なった。

2　培養土

真砂土７・バーク堆肥３の混合土１m³に対し、牛糞堆肥4.5kg、マグアンプ大粒1.0kgを加えたものを用いた。

3　植栽

A区

ペンタスなどを地植えしていたが、病害虫により生育が思わしくなかったため、ベゴニアを除く下草類の植栽は行なわず、冬期にハイビスカスなどの鉢物を展示した。

B区

暖房パイプから北半分でアグラオネマ、ディフェンバキアを品種変更せずに、切り戻し・挿し木を行った。なお、夏～秋においては、カラディウムの鉢植えを株間に展示した。

南半分は、ルエリアなどを品種変更せず剪定・植え戻した。併せて、ペンタスなどをプランターに植え、順次花物を更新しながら、植栽した株間などに展示した。

C区

コルディリネ、ドラセナを品種変更せず、事前に挿し木をしておいた株などを利用し、植栽した。

D区

クロトンを切り戻しながら、老朽株は除去し、植え戻した。

4　植え付け後の生育状況

A区

ヤシ類は順調に生育している。

B区

ヘゴは、株回り掘り上げにより、展開葉に傷みが見られたが順次回復した。下草類は順調に生育している。

C区

順調に生育している。

D区

数株、葉のしおれがみられたが、切り戻しにより順調に生育している。

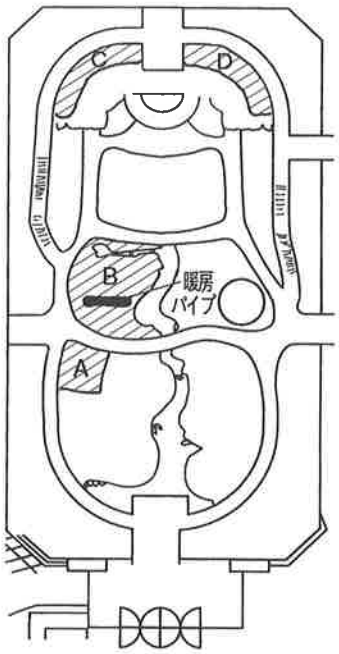

図　大温室土壌入替え施行場所

Ψ Ψ Ψ